

1. 検討概要

(1) 目的

外国人にも分かりやすい道路案内のための表示内容等の提案

(2) 対象とする標識類

- ・道路案内標識：車両系
- ・観光案内サイン類等：歩行者系



道路案内標識（車両系）



観光案内サイン類（歩行者系）
短冊型 矢羽根型
〈誘導タイプ〉 〈地図表示タイプ〉

(3) 整備する際の基準等

道路案内標識（車両系）

- ・「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」
- ・「道路標識設置基準」「各自治体の道路標識寸法条例」

※平成26年4月「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令の一部を改正する命令」により、道路案内標識の日本語には英語を併記することが原則となった。

観光案内サイン類（歩行者系）

- ・各自治体の独自基準
（「国内外旅行者のためのわかりやすい歩行者用案内サイン標準化指針平成20年2月」（東京都）、「案内サインガイドライン類」（区市町村））

3. 分かりやすさの向上（検証結果）

使用言語

【車両系】

法令を踏まえ、ローマ字から英語表記への改善を推進



【歩行者系】

日英2言語を基本とし、日英以外を表記する際は、地域特性や視認性などを考慮



表示内容

【車両系】

ピクトグラムや路線番号の表示の充実



【歩行者系】

- ・地図面などに表示する施設やピクトグラムの充実
- ・目的地までの距離情報の表示

視認性

【車両系】

表示の簡略や省略、文字サイズの拡大などの工夫



日本語の
1/2



日本語の
2/3

【歩行者系】

矢羽根型の誘導タイプサインが効果的

設置場所

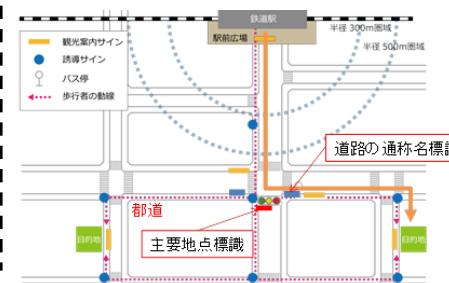
【車両系】

- ・「道路標識設置基準」に基づき、不足場所への設置
- ・道路案内標識と観光案内サイン類の集約



【歩行者系】

- ・観光案内サイン類と道路案内標識の連携
- ・観光案内サイン類は、目的地の入口や分岐点等に設置



施設表示

【車両系・歩行者系
共通】

- ・英語表記の統一
 - ・東京都内の英語対訳共通ルール及び対訳表の作成
- ※道路標識適正化委員会で審議・決定

「通り、街道、道路等」の表記
幹線道路等：「通称名+Ave.」
生活道路等：「通称名+St.」

「駅」の略語

Sta. (○) STN. (×)

2. 検討内容及び検討手法

(1) 検討の視点

標識やサイン類を車両系及び歩行者系に区分し、5つの視点（使用言語、表示内容、視認性、設置場所、施設表示）で外国人旅行者にとって分かりやすい表示方法等を検討



外国人アンケート実施状況

(2) 検討方法

- ・国内外の事例調査から抽出した好事例を参考にし、分かりやすい標識類の検討
- ・外国人アンケートにより検証

4. 取組方針

【車両系】

- ・英語表記の改善を推進する。必要に応じて、ピクトグラムや路線番号の表示に努める。
 - ・標識の新設及び更新時には、表示内容の簡略化など視認性を確保できるように工夫する。
- ⇒「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた道路案内標識整備の取組方針」を作成

【歩行者系】

「案内サイン標準化指針」に検証結果の反映を図り、「同指針」を踏まえ、観光案内サイン類の充実に努める。

※取組にあたっては、各実施者（道路管理者、観光部局）が地域の状況に応じて整備を進める。

5. 先行取組事例

「訪日外国人旅行者の受入環境整備事業」の戦略拠点「押上・業平橋」「秋葉原」「銀座」「蒲田」において、英語表記の改善に取り組んでいる。平成26年度は、「押上・業平橋」「銀座」で改善工事を実施。